⑯ 不破郡垂井町垂井地区まちづくり協議会

事務局：〒503-2193 不破郡垂井町1546-4
垂井地区まちづくりセンター
会　長：柏　康夫

地区の概要

垂井町には、7つの小学校区ごとにそれぞれまちづくり協議会があり、垂井地区の人口は5,835人、2,231世帯（平成28年3月1日現在）である。垂井地区まちづくり協議会は、住民、議会及び行政との協働のもと、垂井地区まちづくりセンターを「核」とした地域コミュニティを形成し、地域の絆を深め、安心して暮らせ、豊かで住みたくなるまちづくりを目指して平成25年2月に設置された。子供茶道教室や歴史講座などの生涯学習事業や河川敷ウォーキングなどの青少年健全育成事業、文化祭等の地域ふれあい事業など、活発に活動を展開している。

主な特色

●「さくらプロジェクト」を立ち上げ、地域の桜の保全活動に取り組んでいる。

垂井町の中央を流れる「相川（あいかわ）」の両岸に、樹齢50年以上の「ソメイヨシノ」がおよそ200本あり、春には桜の花が咲きほこる。3月下旬から5月上旬まで、約350匹の鯉のぼりが一斉に空を泳ぎ、桜並木に彩りを添え、住民はもとより観光客にも大変親しまれている。しかし、桜の寿命は、60年から80年程度といわれており、このままでは枯れてしまうことが予測される。そこで、垂井地区まちづくり協議会では、「さくらプロジェクト準備室」を立ち上げ、桜を保全するために活動を開始した。

まず、プロジェクトに賛同し、協力してもらえる住民ボランティアを募集し、平成27年からボランティア養成講座を開催することとした。3月に本巣市根尾にある「淡墨桜（うすずみざくら）」の手入れ保存の活動を担っている樹木医の浅野明浩先生を講師に招き、堤防沿いの桜並木の現場で、現在の樹木の状況や延命方法等の助言を受けた。「手をかければ、それだけ桜は応えてくれる。皆さんの熱い思いで大切に手入れをしていってほしい。」とエールを送られた。同年10月には、町の学芸員に依頼して、「相川の桜の歴史」についての講演を受けた。

●桜の保全活動に先進的に取り組んでいる各務原市の「百十郎桜（ひゃくじゅうろうざくら）保全ボランティア」との交流学び合いを実施。

「百十郎桜保全ボランティア」は、各務原市の代表的な観光スポットでもある新境川（しんさかいがわ）堤沿いの百十郎桜の保護・育成に取り組んでおり、堤防沿いの桜を観光資源としている点で垂井地区と共通している。同年12月に、垂井地区のボランティアが各務原へ出向き、百十郎桜保全ボランティアの方々の活動現場を見ながら、桜の整枝や剪定の方法等について指導を受けた。その後の座学では、保全ボランティア活動を継続できる組織運営や、行政との連携の大切さ等について助言を受けた。翌28年3月には、百十郎桜保全ボランティア代表の須田長良（ながら）氏を招き、相川の桜並木の現場を見ながら、はらう枝を見極める方法や、枝を切り落とす位置、切り口に対する処置等の技術的指導を受けた。その後の意見交換で、須田さんは「誰かにやらされている感覚では続かない。（百十郎桜保全ボランティアの）自分たちは活動が楽しいから続けられている。」と話された。

相川沿いの桜と鯉のぼり

現地指導の様子

現地指導の様子

意見交換会の様子

ポイント　～ボランティア養成講座を通じ、地域に愛される桜の保全活動の必要性やその魅力への理解を深めている～

まちづくり協議会が中心となって、地域に愛される相川の桜の保全ボランティア活動「桜プロジェクト」を立ち上げ、住民ボランティアを養成する講座を開催。樹木医からの指導、ボランティア活動先進地との交流などを通じ、保全活動の必要性やその魅力への理解を深めている。講座の参加者からは、桜に対する愛着が一層湧いてきたという声も聞かれている。

今後の展望

地域住民の方に、桜保全活動の意義や魅力を理解してもらい、ボランティア活動の輪を広げていくことが求められる。各務原の百十郎桜保全ボランティアとの交流を今後も続け、学んだことを広く地域に情報発信し、保全活動への意識を高めるとともに、行政や他団体との連携も模索しながら活動を進めていく。保全活動を通じて、世代を超えた住民同士の絆が深まり、郷土愛と地域の活性化につながっていくことが期待されている。

ぎふ地域の絆づくり支援センターからのお知らせ

可児市若葉台（平成24年度モデル地域）のキーパーソンを講師として派遣しました

大垣市日新連合自治会が平成28年1月に自治会関係者等を対象に開催した地域づくりを考える研修に、県から可児市若葉台高齢福祉連合会顧問の村上博三（ひろぞう）氏を講師として派遣しました。高齢福祉の事業を自治会から下部組織（高齢福祉連合会）に委託する形をとったこと、組織運営の工夫（対等の原則・任意参加の原則・自主裁量）により、高齢化する団地における住民同士の支え合いの活動を活発にした経験に基づく実践的なお話をいただきました。

講演の様子